

平成26年度 自己評価公表結果シート

宣真幼稚園

1.園の教育目標

- ・弘法大師の教えに基づき、心豊かで、健やかな子どもを育てる。
- ・多彩なカリキュラムを準備し、子どもたちの「知」「情」「体」を育てる保育を目指す。
- ・保育活動や遊び、運動を通して、心身の成長を援助するとともに学びの芽を育む。
- ・地域連携を推進し、多世代交流を通してコミュニケーション能力を培う。

2. 本年度重点目標

- ・生涯教育へ繋がる幼児期の保育を通じて「心豊かに共生する力」の基礎的な部分の育成を図る。
- ・27年度の認定子ども園開設を視野に入れ、保護者との更なる信頼関係を築き、地域で愛される学園づくりに努める。
- ・指導的立場の者と現場保育者双方の異なった視点から保育内容の振り返り、擦り合わせをし、質的向上を目指す。
- ・学年・クラスを超えたチーム保育など教員間の協力的な指導体制の下、子どもの内的発展を育む。

3. 評価項目

| 評価分類 | 評価項目 | 評価 | |
|---------------|-----------|--|---|
| 保育の計画と実践 1 | 教育要領と指導計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに携わる者は、正規職員、臨時的職員に関わらず教育要領の5領域(健康、環境、言語、表現、人間関係)のねらいと内容の理解を深める。 ・今年度園は、文科省より全国体力運動能力運動習慣等の調査対象園の委託を受け全園児対象に各部測定を行い調査報告体制を整えて実施した。 ・園長、主任は、幼稚園の状況を踏まえた教育目標及び指導目標の設定、その達成に向け評価、振り返りを行う。 ・毎月の園だよりや説明会の機会を活用して幼稚園の教育について理解推進し、園だより・クラスだよりで子どもの成長と指導意図を伝える。 ・幼児期に自分以外の多様な感情に対する意識を高め生命の尊重、自尊感情を持つように教育を展開する。 ・要支援認定を受けた子ども一人ひとりの「実態に即した特別支援教育」の実践の為、園長・教職員が研修に参加し加配の教職員とのチームケアを行っている。 ・幼稚園教育要領に示されている教育週数・及び教育時間を上回り、常に必要十分条件を満たしている。 ・文化資源の掘り起こし及びそれを活用した保育環境構成として、今年度から日本の伝統文化である古武道の薙刀を導入し、年中児に礼儀作法を学び正しい姿勢を保てるよう保育に活用する。 ・担任は、日々の保育日誌を活用し幼児理解、環境構成充実に努める。 | ○ |
| | 保育の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・慣らし保育時に大学の教授、学生らによる「英語で遊ぼう」を開催し、英語に親しむ。 | ○ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達年齢に応じた望ましい内的発展が出現するよう遊びを工夫し、子どもを観察し実態を把握する。 | ○ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・園長・主任は、担任に教材研究並びに教育現場に求められている保育内容を理解し環境構成を整えるよう指導している。 | ○ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の信頼関係の下子ども自ら、人間関係をつくり多様な感情を体験し、充足感が味わえるよう適切に援助する。 | ○ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・環境構成を研究し、遊具、教具の使い方に工夫を凝らし幼児の主体的な活動の尊重が実践出来ている。 | ○ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・少子化による異年齢交流の機会が減少している社会状況を踏まえ、学年に留まらず異年齢や大きな集団の形成交流など、園全体で場に応じた保育の実践が出来ている。 | ○ |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の広がりや深まりを視野に入れ、幼児の発達に沿い興味、関心に応じた教材の研究を常に行っている。 | ○ |

| 評価分類 | 評価項目 | 評価 | |
|--------------------|----------------|---|---|
| 保育の計画と実践 ― 2 | 自己点検と研修 | ・登園時には、保護者と会話し、視診を強化して子ども個々の体調を確かめ、観察結果について必要に応じて園長に報告記録し、保護者、養護教諭、医療機関との連絡を密にしている。 | ○ |
| | | ・毎月地震、火災・誘拐等の災害発生時の為の避難・通報訓練に慣れが生じない様緊迫感を持ちつつ子どもが自信を持って指示通りに行動出来るよう安全教育を進める。 | ○ |
| | | ・保育参観では親子交流が図られ普段来られない保護者も参加出来るよう曜日設定も工夫している。 | ○ |
| | | ・教職員間の援助、フォロー、補足、支持的学び合いの気風があり相互の保育内容を質的に引き上げる土壌が形成されている。 | ○ |
| | | ・一人ひとりの保護者、子どもと信頼関係を構築し、子どもが園生活の中でも安心して自分を出せるように自己肯定感を育みその確かな成長を支えている。 | ○ |
| | | ・保育実践の主体者としての課題の発見、解決への工夫が出来ている。 | ○ |
| | | ・更なる幼児教育技術の向上を目指し保育の振り返り・気付き、改善への積極的な取り組みが出来ている。 | ○ |
| | | ・食用植物栽培・試食体験を通じて食物の身体への寄与を知らせ、子ども自身で少しずつ偏食の自己矯正が出来る様指導して行く。 | ○ |
| | | ・長期休業中や休日に於いても、積極的に外部研修への参加し自己研鑽が計られ、帰園後報告し日々の保育に活かす様にしている。 | ○ |
| | | ・自己課題が、園の運営課題と連動していると意識し解決に向けて、目標(Plan)―実行(Do)―評価(Check)―改善(Action)というPDCAサイクルに基づき継続的に改善している。 | ○ |
| 家庭支援・教育相談・地域社会 | 保護者とのコミュニケーション | ・開かれた園づくりを目指し、常に保護者の声を聴く用意があり、その内容について園の方針を提示しつつ実践出来るものは多く反映し、保護者との連携を図っている。 | ○ |
| | | ・園での出来事は、職員全体の共通理解となる様放課後担任が保護者と管理職に連絡し、翌朝職員朝礼で報告し合う。 | ○ |
| | | ・保護者会役員・分掌委員・学級委員の方々と意思の疎通を図っており、緊急事態発生時の折は、メール等で事態の周知・收拾を図っている。 | ○ |
| | | ・保護者は、登園・降園時に保育者と情報交換出来ており、バス通園児保護者にはバスにその都度情報を掲示し個々に担任から連絡する工夫をしている。 | ○ |
| | | ・保護者相互の親睦と学びを深める機会を設定する為、「保護者カルチャースクール」を開催し、保護者が子どもと共に講座に集中し新しい知識と技術が習得出来る様に夏休みや土曜日など休園日に教職員を手配して子どもを無料で預かり、便宜を図っている。 | ○ |
| | | ・大行事や給食など、保護者が体験、試食し、アンケートを取った結果を園だよりで公表し、改善に向けて保護者会役員と検討している。 | ○ |
| | | ・設定保育内の英語や能力開発プログラム、音楽教育以外に更に学ばせたいと保護者のニーズに応え高校教員を動員し課外活動に当たらせている。 | ○ |
| | | ・保育者は、保護者が子どもの園に於ける生活の仕方を知り、子どもたちが園生活の場を整えながら見通しをもって行動するよう援助出来ている。 | ○ |
| | 家庭教育に於ける保護者支援 | ・関係機関と連絡を取り、保護者が主体的に「子どもの育ちの肯定的捕らえ方」の進言もしくは提言を受け止められるよう園は能動的に努力している。 | ○ |
| | | ・担任を主とし、園全体で家族の姿の現状を知り共感を心がけ保護者との信頼関係を構築し、「課題」を炙り出し解決に向けて行動出来るよう支援する。 | ○ |
| | 地域との連携 | ・休園日の校区小学校の出前授業講座には教職員を手配し運営に協力している。 | ○ |
| | | ・池田市の外郭団体によるお遊び会、園主催の親子教室・プール園庭開放等して園の人員を当て市や府の地域子育て拠点事業の一端を担っている。 | ○ |
| | | ・毎週土曜の休園日に管理職が出勤し、在園、在外が混在するキッズチアダンスなどからの施設設備の借用の願いを聞き入れ開放している。 | ○ |
| | | ・秋まつりやクリスマス会など園行事に地域住民からなる団体に参加して貰い連絡を充実させている | ○ |

4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

・総合的な評価としては、計画したことは達成できている。下半期も、引き続き保育計画の完遂を目指し研鑽と環境構成の工夫に励みたい。
・今年度も園長以下教員を公的・民間主催の多種多様な研修に派遣、参加させた。保育現場で研修成果が実践され、さらなる保育の質の向上を目指し、創意・工夫に励む事が出来ている。
・公立小以外の小学校進学を希望する保護者の思いも汲み取り、園として出来る限りの支援が出来た。結果としてほぼ希望通りの小学校に進級出来た。

5. 取り組むべき課題

・教職員自身が自己課題に積極的に取り組み研修報告も上がっているが、興味や関心の幅の広がり欠けている部分もあり日常の保育内容の見直しと改善点を見つけて保育技術の引き出しを増やしていきたい
・保護者会主催の行事であっても、園で実施されるものであるならば、行事の中身を園としても保護者会の思いを受け止めながら精査、連絡を取り合い事故発生の無い様支援してゆく。
・保護者個々と園と意思の疎通を図るべく、関わる機会を増やすよう更に努力する。
・今年度(財)全日本なぎなた連盟大阪府支部より平成27年度の国体に幼児のなぎなた演技披露を依頼された。伝統文化資源の掘り起こしや教育資源の一つとして活用する。子どもの身体に負担の無い様専門家の指導の下、次年度に向けてカリキュラムとして定着化を計る。
・平成27年度より認定子ども園として新たな事業展開となる。長期的な観点から施設増設を含む園舎耐震化に向けて専門機関による調査を行ったところであり、宣真学園の指導の下財政状況をかんがみ順次計画遂行してゆく。
・新園舎建設にあたり、園児の送迎を自転車・自家用車で行っている保護者に、完成まで暫時駐車不能と子ども受け渡し安全確認を周知徹底する。

6. 学校関係者評価

・2歳児プレ入会で、キャンセル待ちが発生するなど、近年高評価を得ているのは学園の幼児教育への積極的な取り組み結果であると思う。
・毎年継続して休園日に講座を開設、園舎や設備を開放する他、地域情報の提供など貢献度の高さは評価できる。
・ブログの更新が早く、ホームページで情報の視覚化を充実させ内外に「園児や保育」の有り様が知らされている。
・今年度も保護者支援のために平日・土、休日などの預かりも良く計画され、努力している様子が伺える。
・在園児のみならず、卒園児の保護者支援に放課後児童クラブを設立し、高校教員を動員し学習の面倒を見る、課外授業も継続して受講できる。また、年長児の保護者で国・私立小学校受験を希望する人には、その要望に沿って幼児教室など連携先を紹介するなど子どもの卒園後にあたるフォローも手厚く保護者の信頼とニーズに良く応えている。
・以上のことから評価は、「良好」だと言える。

学校評価委員会(第三者評価) なでしこ会・地域の方

開催日 平成26年7月19日(土)

時間 11:00~12:00

場所 宣真幼稚園 1階 かぜ組保育室

議長 福田 昌雄 なでしこ会会長
小林 義典 " 副会長
松村 和香 " 副会長
小島 友紀 " 書記
財間 真佐子 " 会計
足利 三紀子 地域の方
石田 紫緒 地域の方
栗林 優 保護者会 副会長
中川 千津江 幼稚園 園長
藤井 豊 " 事務主任
足立 裕子 " 事務長